

石毛の勝手な意見集 ■あくまでも石毛の私見のため、参考にならない可能性大。ご注意ください。

### “If You’re Happy and You Know It”

If you’re happy and you know it, clap your hands  
If you’re happy and you know it, clap your hands  
If you’re happy and you know it, then your face will surely show it  
If you’re happy and you know it, clap your hands

これを子供に何度も聞かせたいときに、どんな投げかけをするか。数に○がついて黄色くなっているところが回数を表しています。

①まずは、何も言わずに2回以上聞かせる。①②

※1回ではなく、2回以上なのは、1回では音を聞かせる機会として不十分だと思うから。

②何度か聞かせた上で、「どんな音が聞こえてきた？」と投げかける。

※ここでのみそは、「音」とすること。「言葉」とするのは大人の考え方。あくまでも「音」とすることで、自由に発想を膨らませてほしいから。

③子供が聞こえてきた音が他の子にも聞こえるか確認するためにもう1度歌う。③

※納得していない子や、不安そうな顔をしている子がいる場合には、「じゃあ、今度は聞こえたところで手を挙げてみて」と投げかけます。そうすることで、わからなかった子もそれを見ながら安心できるから。

※僕の場合は、1度歌った④後に、間髪入れず、もう1回歌い⑤ます。そうすることで、④の時に手を挙げられなかった子も挙げられるから。でも、全員があげなくてもいいんです。

※そして、この後、もう一度歌い⑥ます。この時に、先生も手を挙げて全体で確認する感じにします。

④他にはどんな音が聞こえてきたか児童に投げかける。これを何度かやる。

※ところどころで、子供たちに一緒に歌わせてみる。どこが歌えていて、どこが歌えていないかをこちらが把握するため。

こんな感じですかね。

### 気をつけたいこと

・パートパートに分けて聞かせるのではなく、全体をいっぺんに聞かせる。

※歌えるようにするための歌の活動ではなく、あくまでも自然な英語のリズムやイントネーションを身につけることを狙っているから（石毛は）

・単語の理解を細かくやるのではなく、あくまでも大まかに理解する程度でよい。

※細かくやりだすと、単語の説明をしたくなってしまうから。

・子供に「聞こえてきた音」を投げかけているので、こちらの子予想していなかったものが出てくる可能性があります。この時に、大人の思っている音を与えるのではなく、子供が自分でつかみとっていけるようにするといいですね。

※あくまでも、歌えるようになることが目標ではなく、英語らしいリズムやらイントネーションを身につけていってほしいから。大人がもっている音の多くは、英語らしくないですよ（笑）

## よくある質問 (8 / 22 版)

Q: 英語をたくさん聞かせるというのは、デジタル教科書の音声や、歌やチャンツということでしょうか。

A: たくさん英語を聞かせるということは、その時間で扱う英語表現を本当に言っている場面をたくさん作るということです。電子教材の音声を聞かせるのにも、そこに意味がのっているかを考えます。もしできることなら、先生が本気でその英語表現を使っているのがよいとは思いますが。。。聞かせるだけの時間というよりも、やり取りをする中で児童は日本語で答えるかもしれないですが、先生は英語で自分のことを話してあげ的过程中で英語表現を聞かせるというイメージです。なので、歌やチャンツは別物として私は考えています。歌は英語らしい音の流れ、リズム、イントネーションを身につけるために使っています。また、チャンツは「教えてやろう」感が強いいため、使っていません。

Q: 英語表現に合った歌を探したいのですが、どのように探していますか。

A: ほんと、めんどくさいですよ。けど、私自身が歌を英語表現に寄せていないので探すのは簡単です。その日に使う英語表現が入った歌なんてそうそうありませんよ。もしあったとしたら、その学習のために作られた歌ぐらい。。。もしくは、皆さん大好き「チャンツ」ですね。無理やり教えてやろう感のある歌やチャンツが苦手なので、そこに時間をかけずに、基本的に歌は英語らしい音の流れやリズム、イントネーションを身につけるために使っているので、自分が歌いたいなあとか、子供たちだったらのりそうだなあとか思うものを使うようにしています。音源としては、なるべく英語圏の子供が聞くようなものを扱うようにしているので、“Wee Sing”というCDを使っています。そこから選ぶものだったらある程度のクオリティのものなので！

Q: コロナの対策で、子供同士のやり取りができないような授業を作っていくようになると思うのですが、子供同士のやり取りをせずに授業をするにはどうすればよいでしょうか。

A: 感染防止の対策に関しては。。。難しいです。実際、その対策は全く考えられておりません。子供同士でやり取りをせず、先生と児童がやり取りをするのはよいのであれば、基本的に私は子供同士のやり取りは最後の最後にしかしないので。。。「話すこと（やりとり）」と「話すこと（発表）」をダイアログで話せるか、モノログで話せるかとしてとらえらるとしたら、まあ、子供同士のやり取りは *must* ではないですよ（笑）ただ、教員とのやり取りもなくなったら、破綻ですね( ; ▽ ; )

また、ALTの先生を活用してみました。廊下でALTの先生と1対1でお話する時間を取りました。子どもたちは最初はとまどっていましたが、最終的には「またやりたい!」とっていました。負担の大きくなるものではなく、簡単に考えて「お話タイム」を作ってみるのもありかもしれませんね。

Q: 英単語を覚えさせるのに、フラッシュカード以外によい方法はありますか？

A: フラッシュカードは、すでに知っている音と文字を瞬時に一致させるための活動という認識が強かったです。。。違っていたらすみません。なので、初めて音を聞く子供たちにフラッシュカードで単語を「覚えさせて」いったら、記憶力のよい子供は覚えるかもしれませんが、覚えられない子にとっては、ただの「音」が流れていくだけになってしまうと私は感じます。そのように伝えると「じゃあ、単語はどうやって覚えさせればいいんですか?」という方もいると思うので。。。私だったら、せつかくカードがあるのであれば、本当に使われている中で先生が使っていき、子供にその単語を理解させ、何度も音声を聞かせる中でinputしていくかなと思います。例えば、道案内の単元（僕はやりたくありませんが。。。）の中で、建物の名前を導入する際に、“In Nogata, do we have a fire station?”と聞いていく。最初は何を聞かされているかわからないでしょうが、何度も音を聞かせた上で、“fire station”のピクチャーカードを見せて同じ質問を投げかけると子供は理解できますよね。そうすると、こちらが日本語で説明しなくても、多くの子は理解できます。（別に野方でなくてもいいんですけど。。。学校周辺ってしてもいいと思います）そして、黒板に○×を書いておいて、○のほうには「ある」

ものを貼っていきます。貼るときに“*We have a fire station in Nogata.*”と言いながら貼っていきます。そんなやり取りをリズムよく行っていった上で、今度ははがすときに「じゃあ、一緒に口に出せるところだけ口に出して言ってみよう。」と伝え、“*We have a fire station in Nogata.*”と言いながらはがしてあげる。(もし2人で授業を進めていけば、Aが言い、そのあとに続いてBがrepeatする。このBの時に、児童が一緒に言うようにすれば、よいでしょう)

同じカードを使って、「じゃあ、家の近くにあったらいいなあと思ったものは？先生は、*I want a supermarket. How about you?*」と聞いていけば、こちらがやりたい単語が出てこないで子供から引き出すことができますよね。ここで気をつけたいのは、「英語で言え」と強制しすぎないこと。クラスの子供によっていろいろな対応ができると思いますが、子供たちから出てこないところだったら、“*Do you want a hospital?*”と子供に投げかけてあげるでもよいと思います。そうすることでもう一度聞く機会にするのもよいと思います。慣れている子たちであれば、“*What do you want?*”と聞いてあげればいいですよ。子供は①日本語で答えるかもしれません。②建物の名前だけ単語で答えるかもしれません。③英文で答えるかもしれません。①や②の場合は、“*Oh, you want O O. I want a supermarket.*”と言って言いたかった英単語と英文(の手本となる音)を聞かせてあげる。この繰り返しで、子供たちは自分の言いたいことを少しずつ言えるようになります。意味が伴っている音なので、子供たちは何度も何度もやらずとも、自然と使えるようになります。

こんな風にすると、単語を「覚えさせる！」ではなく、「使いながら」英語に慣れ親しんでいき、習得へつなげていくことができるのではないのでしょうか。

Q: 単語ごとに覚えさせていく方が覚えやすいような気がするのですが、どうして先生は「かたまりで子供に聞かせる」ことにこだわっているのですか？

A: 単語ごとに「覚える」ということが、今までの英語の学習の考え方から抜けていないと感じます。言語なので「覚える」のではなく、「使う中でできるようになる」という方がいいかなあと考えています。また、単語ごとに覚えることが楽だと思っているのは大人の考え方かもしれません。子供の中には単語という概念がないので、どんなかたまりだろうと難しいと感じると思います(笑)また、単語ごとに分けることの弊害は、英語がぶつ切りになってしまうということだと思います。それは単語よりも小さい単位のものでも同じだと思っています。音素やフォニックスなどは大切だと思いますが、英語圏の子供たちがフォニックスを使って学習するのはすでに音が入っていることが前提だと思っています。英語の音が入っていない日本の子供たちにそれをやっていくと、やはりぶつぎりで覚えていくような形になるのかと思います。もちろん、フォニックスでできるようになることもあります。文字を見て、その音を出せるようになることがフォニックスを扱うことで力を入れているので、文字を見て読めるようになる力はつくでしょう。それは否定しません。ただ、ここで私が言いたいのは、子どもが自然と言語を学ぶときの学び方につながるかどうかです。音声から入り、それを文字化していくことが、子どもの自然な言語の学びだと私は考えています。また、かたまりの中から子供がつかみ取っていくことが大切だと考えています。ただ、これには様々な考え方がありますので、各自で「子どもの学び方」について考えていただき、ご判断いただけたら幸いです。

Q: 子供が英語を使う「必然性」とはどんなものなのでしょうか？教室の中で子供同士の役割を分担して「やりとり」をさせた際に、「これって本当にやるの？」と子供から言われてしまいました。

A: 英語自体を使う「必然性」を教室の中で作るというのはとても大変なことだと思います。もちろん、そのような場面が作れるのであれば最高のでしょうが。。色々なところで偉い先生方がおっしゃっている「外国人のALTを使って」とか「外国の小学校と連携をとって」とかいうことは、とても労力が必要ですし、みんながみんなできることではありません。(ALTが毎年変わるのであれば別ですが。。)

そのような状況の中で「必然性」とはどのように考えていけばいいのか。私自身は、「英語を使う必然的な場面を作る」というよりも、「その話の内容が当たり前のように fit する場面」というようにとらえています。つまり、「日本語にしたときにでも会話をしていて自然な場面を作る」ということです。英語で考えようとするから大変なのであって、その会話が日本語にしたときに自然かな？という考え方のもと、言語活動を仕組んでいけば、担任の先生でも考えやすいかと思います。そして、その内容は普段の児童の姿をしっかりと見てらっしゃる先生方であれば、容易に作り出せると思います。

Q: 「使いながら身につける」ということは、output が大事だということでしょうか？

A: 「言語活動」＝「本当に使われている中で」ということをいつも僕が言っていますよね。単純なものでいうと、普通に会話をするじゃないですか？昨年夏に公開した授業（見ていない人にもわかるように説明したいと思ってはいますが。。上手くいくかな）の中で、「みんなの好きな色で旗を作っていく活動」をやりましたよね？あれは、本来であれば、子どもたちは日本語でスタートしてもよかったのです。先生が“I like red.”と言いながら旗の口を一つだけ赤にします。その上で、子どもに“What color do you like?”と聞いていきます。あの授業では子供たちができすぎていて、いきなり“I like blue.”とか“green”と英語で返してきましたけど、本来であれば「青」とか日本語で返してくるのです。その際に先生が、“Oh, you like blue.”と言いながら、その子の言った「青」を塗ってあげる。それを指さし、その子供を見ながら、“You like blue.”そして、そのあと教師が自分のことを指しながら、“I like red.”と言ってあげることで、自分の言いたかったこと（意味）を先生の言ったこと（音声）と結び付けることをしていくのです。これも「使いながら身につけていく」ことの一つだと思っています。なので、まずはinput からなのですが、子どもが意味を持って言葉を発する場面を作ってあげることが大切だと感があります。う～ん。。説明できているのかな。。

Q: 子供が英語を使う「必然性」とはどんなものでしょうか？教室の中で子供同士の役割を分担して「やりとり」をさせた際に、「これって本当にやるの？」と子供から言われてしまいました。

A: 英語自体を使う「必然性」を教室の中で作るというのはとても大変なことだと思います。もちろん、そのような場面が作れるのであれば最高なのでしょうが。。色々なところで偉い先生方がおっしゃっている「外国人のALTを使って」とか「外国の小学校と連携をとって」とかいうことは、とても労力が必要ですし、みんながみんなできることではありません。（ALTが毎年変わるのであれば別ですが。。）

そのような状況の中で「必然性」とはどのように考えていけばいいのか。私自身は、「英語を使う必然的な場面を作る」というよりも、「その話の内容が当たり前のように fit する場面」というようにとらえています。つまり、「日本語にしたときにでも会話をしていて自然な場面を作る」ということです。英語で考えようとするから大変なのであって、その会話が日本語にしたときに自然かな？という考え方のもと、言語活動を仕組んでいけば、担任の先生でも考えやすいかと思います。そして、その内容は普段の児童の姿をしっかりと見てらっしゃる先生方であれば、容易に作り出せると思います。

Q: 石毛先生の子供たちへの投げかけや、子どもの乗せ方が上手で真似ができません。どうしたらできるようになりますか？

A: そんなに簡単にできるようになられては困り（笑）僕だって、これまでたくさんの失敗を積み重ねてきたのですから（笑）自分でも試して、失敗してってください。自分に合った指導法があるはずなので、それを探してみてください。授業だけではどうにもなりません。子どもとの関係づくりや、普段の授業から餌を撒いておくことが大切だと思っています。なんなら、僕の英語以外の授業を親に来ていただくのがいいかもしれないですよ（笑）正直なところ、英語の専門家になりたいわけではなく。。学級経営をもっともって勉強したいですもん。もっというと、算数の授業を考える方が好きです（笑）国語の授業も楽しいですよ。

外国語の授業を考えることが一番の苦痛です(^; どんな投げかけの仕方をして子どもが反応してくれるのか、どうやって乗せていったら、子どもが爆発しすぎずに授業に参加してくれるのかは毎日の授業の中でも探せると思います。今まで「英語の授業＝ゲーム」という意識が強すぎて、他の教科と違うと考えていらした先生方も多いと思いますが。。他の教科と基本は変わらないのです。細かいところは異なりますが、もう一度基本を見直すと、たぶん、僕なんかよりも力のある先生方ですから、上手にできると思います。

Q: 教科書の指導書通りの活動をしているのですが、子どもに力がついたように感じません。また、教科書の活動をそのまましても「つまらない」という児童が多数います。どうしたら教科書を楽しくできますか？

A: 他の教科では皆さん、どうされているでしょうか。教科書に出てくるものをそのままやっていますか？私自身、教科書を作ることに少しだけ携わってみて、「言語を習得するうえで、教科書だけでやるのは無理がある」と思いました。また、今回の外国語の教科書に関していうと、文科省からすべてが出てくる前に作らなくてはならなかったという弱点もあります。今、色々なことが便利な世の中になってきて、「その通りに進めればできる」ものが増えてきました。私自身、ここに不安を感じています。先生方は、ご自分で授業をやる際に何を考えているでしょうか。「子どものように学んでいくのか」「子どもにどのような力をつけたいのか」などを考えていただけたらいいかと思います。

例がいいのかわかりませんが、私は教科書を「インスタントラーメン」だと思っています。そのまま食べてももちろん美味しいのですが、工夫を加えませんか？野菜炒めを加えたり、卵を加えたり。。僕はラー油をたらしたり、コショウをかけたりします。授業においてもその工夫が必要なんだと思います。いきなり大きなことはできないと思うので、本当にちょっとした工夫を「足せるときに」足してみると何かわかるかもしれません。準備に時間がかかってしまうと続けられないので、簡単にできるものを加えていくのがよいと思います。そのヒントになるものが、HPから見つけられたら幸いです。